



短歌

末武 有二 選

土手傾りの草木に絡み愛らしく通草の小花ひ
きしめ下がる 安永 守住 孝子

風渡の川の瀬音も心地よく出で湯の里に鯉幟
泳ぐ 惣領 島田 廣子

傍らでパッチワークをする妻の鉄の音の気持
ち良きかな 惣領 垣野 幸一

雨ぞ降るこんな静かな雨の日は思いおこすよ
懐かしい人 木山 赤城 香織

一年生背中を隠すランドセル止まる車に頭下
げ 惣領 甲斐 道夫

雀追うかかしは洒落た赤襷母の古着は未だ現
役 赤井 増岡 伸禧

クラシックカー百六台が風を切る町の復興励
ます如く 木山 本田 龍子

日暮れ時頼に優しい若葉風遠回りして家路を
辿る 広崎 大原 郁

ランドセル背中で弾み音立てる子らは楽しい
朝の登校 広崎 日野ヒロ子

衣替えしたばかりに未練ありまた冬物を探し
てる我 広崎 辻 恵美子

雨けぶる燕飛び交う頃になり我が家に来てと
念じる季節 馬水 倉本研一郎

投稿は、一人一首(句)でお願いします。

俳句

河野 全平 選

水盤の水に雀の親仔かな
鼻みずや黄砂と花粉の季節かな

チウンチウンと雀の群の飛立ちぬ
目に光る地に這ふ花は芝さくら

影引きて五月の鮎の速さかな
渓谷は新緑うつし静なり

座布団の冷んやり嬉し夏日和
残り鴨つがひ沖へと消えにけり

通学路出来て信号点滅す
一句鑑賞

植田まだ空をうつしているばかり

川柳

布田川左門 選

母の日やカーネーションの花電車
くすり漬け治してほしい依存症

おめかしの母のお酌に照れる父
アドバルーン退屈そうに浮かんでる

父の日や息子の電話笑い声
かくれんぼパパを遊ぶ三歳児

仏壇の父の写真と会話する
ピカピカのかばん行列送る父

次回のお題 「梅雨」

投稿は投稿者の住所、電話番号を必ず記入し、役場
広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。



益城の文化財
町文化財保護委員会

木山

日本の社寺建築②

日本では古代以来の農耕社会に
おいて、自然神的な霊は山、川、
森、岩など随所に存在すると考
えられ、社や祠が設けられました。
村社会では宮座が重要な役割を果
たすようになり、18世紀中頃から
庶民の経済力が高まると、村々は
競って彫刻などで飾り立てた社寺
建築を行うようになりました。

一般的な神社建築では、神を祀
る神殿と人々が祈りをささげる拝
殿が別棟で建てられ、神殿と拝殿
を幣殿でつなぐ平面構造となつて
います。神殿の屋根形式は屋根を
そのまま前方に吹き下ろして向拝
とする「流造」が全国的な社殿形式
です。吹き下ろした屋根に千鳥破
風や唐破風をあしらったところも
多くみられます。

また、妻飾りや臺股など装飾化
が進み、彩色や彫刻が多用される